



高崎経済大学地域科学研究所 第14回公開講演会

ほうもつ 宝物を守り伝えるということの意義

寺院学芸員の立場から考える

仁和寺は仁和四年（八八八）に創建された寺院で、遅咲きの桜「御室桜」や、吉田兼好の徒然草に登場する僧侶の話などで知られています。しかし真言宗の開祖である空海の教えを伝える広沢流という法流を継承する寺院であることは、あまり知られていないのではないのでしょうか。

仁和寺は、創建当時の本尊である阿弥陀三尊像をはじめ、国宝12件、重要文化財47件もの宝物が国の重要文化財として指定を受けています。さらに典籍類を含めると10万点を超える宝物を所蔵しており、学芸員として宝物を守り伝えることはとても大事な事であり、やりがいのある仕事だと思っています。しかし、真言宗の根幹ともいえる広沢流の典籍類を、これからも失う事なく後世に橋渡しをする職務でもあるため、少なからず重圧を感じています。

現在は守りながら研究し、さらには公開する事が求められています。よって公開するにあたり、ただ宝物を公開するだけでなく宝物に負担がかからないよう、そして研究者としての成果がでるような展示を心がけています。

こういった寺院学芸員の立場から、これまで知られていた仁和寺とは少し違う部分を掘り下げ、寺院だけでなく地域の宝物や個人宅の蔵に収蔵されている宝物についても、改めて守り伝えることの意義や重要性を考える契機になるような内容にしたいと考えています。

講師：朝川 美幸 氏（総本山仁和寺 学芸員）

日時：令和2年10月24日（土）13時30分～15時00分

場所：高崎市中央公民館 視聴覚室

定員：50名（応募者多数の場合は抽選）

10月6日（火）必着

申込：はがき、FAXまたはEメールにて地域科学研究所へ

《講師プロフィール》 朝川 美幸（あさかわ みゆき）

仁和寺学芸員。1971年、福島県生まれ。立命館大学大学院 文学研究科博士前期課程修了 文学修士。仁和寺管財課書記、課長を経て2015年より現職。年二回開催される仁和寺霊宝館名宝展の企画・展示を行う。共著に『もっと知りたい仁和寺の歴史』（東京書籍）。

お申込み
お問合せ先

高崎経済大学地域科学研究所（事務局 研究グループ研究支援チーム）

〒370-0801 高崎市上並榎町1300番地

電話：027-344-6267 FAX：027-343-7103

E-mail：chiikikagaku@tcue.ac.jp